# 「世界脳卒中デー」全国でライトアップ

【左】太陽の塔（大阪府）【右上】韮山反射炉（静岡県）【右中】栃木県庁昭和館【右下】ジョンソン・エンド・ジョンソン インスティテュート 東京（神奈川県）

## 「迷わず、すぐ救急車を」大切な命へのメッセージ

毎年10月29日は「世界脳卒中デー」。世界脳卒中機構（WSO）の設立を記念して制定されたこの日は、世界中で脳卒中に関する啓発活動が展開される。日本でも脳卒中の予防を呼びかけるため、日本各地の様々なタワーや建物が脳卒中の啓発カラーのインディゴブルー（藍色）にライトアップ。道行く人々の目を引き、関心を集めた。

### 藍色の光をまとった各地の建物や施設

10月29日の午後5時過ぎ、大阪府吹田市の日本万国博覧会記念公園にある太陽の塔が、インディゴブルー（藍色）にライトアップされた。

同時刻、静岡県伊豆の国市では明治日本の産業革命遺産として世界遺産に登録されている韮山反射炉が、宇都宮市では栃木県のシンボルとして県民に親しまれてきた県庁昭和館もインディゴブルーに染まった。その他にも、北は青森県観光物産館 アスパムから、南は熊本大学病院の時計塔・プロムナードに至るまで、全国の建物やモニュメントがインディゴブルーに照らしだされた。

これらは日本脳卒中協会が世界脳卒中デーの10月29日に行った脳卒中予防の早期受診を呼びかけた取り組みの一つで、インディゴブルーは脳卒中啓発のシンボルカラーである。

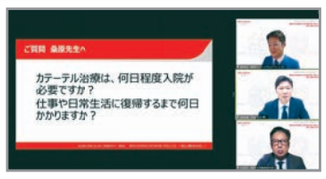
脳卒中は日本人の死因第4位である※1。重い後遺症が残ることも多く、寝たきりの大きな要因となっている。それを防ぐにはこの病気についてよく知り、日頃から予防を心がけなくてはならない。日本脳卒中協会では10月を脳卒中月間に定め、これまで様々な啓発活動をとおして脳卒中の予防、早期発見の重要性を広く一般の人に知ってもらうために力を注いできた。

今年はさらに多くの人に脳卒中に関心をもってもらおうと、10月29日の世界脳卒中デーに合わせて全国規模でのライトアップイベントが実施された。この日、インディゴブルーの光で照らされた全国の建物やモニュメントはニュースなどでも取り上げられ、訪れる人の目を楽しませるにとどまらず、幅広い層の人々に脳卒中の早期発見の重要性を訴えかけた。

### ACT-FASTを掲げ早期治療を呼びかける

ライトアップに先立つこと2日前、ジョンソン・エンド・ジョンソン社の社員とその家族、友人らを対象に「あなたの大切な人のために知ってほしいこと～脳と心臓のおはなし～」と題したオンライン講演会が開催された。

講演会では筑波大学脳神経外科脳卒中予防・治療学講座教授の松丸祐司先生が、寝たきりの大きな原因である脳卒中についてわかりやすく解説した。脳卒中のなかでも脳梗塞（こうそく）は予防可能な病気のため、ACT-FAST（アクト ファスト）※2で初期症状を見逃さず、疑わしければただちに救急車を呼ぶことが重要だと訴えた。




続いて、不整脈治療のスペシャリストである東京ハートリズムクリニック院長の桑原大志先生が、脳梗塞を引き起こす不整脈である心房細動の予防や発見方法、さらには治療についてくわしく解説した。心房細動は早期発見が重要であるため、脈拍の乱れや動悸（どうき）、めまいなどの症状を感じたらすぐに医療機関を受診する必要があることを強調した。

講演後の質疑応答では多くの質問が寄せられ、2人の先生が丁寧にわかりやすく解説することで、500名を超える参加者は脳卒中や心房細動に関する認識を深めた。

東京ハートリズムクリニック 院長
**桑原大志先生**

筑波大学脳神経外科 脳卒中予防・治療学講座 教授
**松丸祐司先生**

※1 出典:厚生労働省「令和元年(2019)人口動態統計月報年計(概数)の概況」　※2 ACT-FASTは「早く行動を！」を意味し、脳卒中予防のスローガンにもなっている

公益社団法人 日本脳卒中協会 The Japan Stroke Association
http://www.jsa-web.org/

一般社団法人 日本不整脈心電学会
http://new.jhrs.or.jp/

Johnson & Johnson
JOHNSON & JOHNSON K.K. MEDICAL COMPANY
https://www.jnj.co.jp/

企画・制作　朝日新聞社メディアビジネス局
194199-211101